

山田詠美

日々甘苦

101



前回、選考委員を務めている泉鏡花賞の授賞式に出席するため金沢に行った、とちらりと書きました。

オフィシャルなおつとめが終わった後は、せっかくだからと滞在をもう一泊のぼして、夫と二人、北陸の地をうろろろすることに。

実は、私、小さい頃、石川県に住んでいたのです。今は、加賀市として統合された大聖寺町というところで、当時の記憶もまだ鮮明です。

町中を流れる大聖寺川のきらきらした水面まで思い出せるほど。子供心にも、転勤族の子という立場が認識出来ていて、寄る辺ない気持で立ちすくむような日々。自宅の裏山のふもとの小川には、いつも何かしら小動物の死骸が流れているのでした。

そこで、既に人生を憂えていたこまつしやくれた私……暗い過去です。でも、小学校に上がると、俄然、毎日が楽しくなってきたのでした。

良い先生に恵まれたというのもあったでしょう。私の担任は、堀ふみ先生という方でした。

私が泉鏡花賞をいただいたのは九六年のことですが、あの時、帰りの小松空港に堀ふみ先生が来てくださったのです。地元の新聞に載った私の受賞記念エッセイをお読みになっ

たとのことでした。たった一年足らずで、私は、また他の土地に引っ越ししてしまったのですが、私の中で忘れたい思いを持ち続けていた先生。縁ってあるんだなあ。

さて、今回の金沢は、あの時以来なのでした。初めての北陸新幹線に乗って駅に着いてびっくり！何もかもがビカビカしている！そして、何もかも値段が高い！特にホテルの部屋は……え？この狭さで、この値段！と突然、不機嫌になった私。そして、どこの食べ物屋さん

も、満員……そして、やはり高い！道すがら買い食いした某有名コロツケに至っては、きーっ、この値段で、この小ささで、このまずさでこれ！ガチガチで冷たくなったコロツケを自ら道ばたに置かれた電子レンジで温めながら、こ、このコスト

パフォーマンスの悪さ、これをバブルと呼ぶのでは？と思いついたのでした。はー、いまだ続く新幹線バブルなのかはたまたまインバウンドバブルの始まり……過渡期の観光地状態はまだまだ続きそうですな。

そんな繁華街を、すみやかに立ち去り、私たち夫婦は五木寛之氏の昔の作品「内灘夫人」に導かれ、砂丘で有名な内灘海岸へと向かいました。

金沢駅から北陸鉄道浅野川線に乗って、てくてくと日本海をめざす……これぞ旅の醍醐味、ヤッホー……！と、言いたいところでしたが、その日は北風の吹きすさぶ、そして、雨のざあざあ降る悪天候。そんな中で日本海に臨む男と女。傘を飛ばされそうになる私たち、もう醍醐味どころか、酔狂の域。

それにしても天気の良い時の日本海って、向かうところ敵なしって感じですね。昔の映画「約束」で、岸恵子さんがヨーケンを待っていたような、いや東映映画のオープンニングか。震えながら、恋人たちの聖地と呼ばれる「LOVE&BEACH / サンセットブリッジ内灘」を背景に記念写真を撮りました。あの体感温度は吹雪のニューヨーク以来でした。

ようやく辿り着いた道の駅では、一杯のかけそばならぬ一杯の海鮮ラーメンを二人で分け合って食べました。インスタントだとすぐ解るような味でしたが、体に染み通るようなあったかさ。カニ、ちっせーっ、と文句を言いながらも、旅の満足感に酔いしれた内灘詣でになりました。無人駅の続く浅野川線も渋い！金沢に来た甲斐ありでした。

(やまだ えいみ)1959年生まれ。'85年『ベッドタイムアイズ』でデビュー以来、直木賞、谷崎賞ほか受賞歴多数。'03年から芥川賞選考委員を務めている。最新作は川端康成文学賞受賞作も収録された短編集『珠玉の短編』。

ラブ&ビーチで
冬の旅